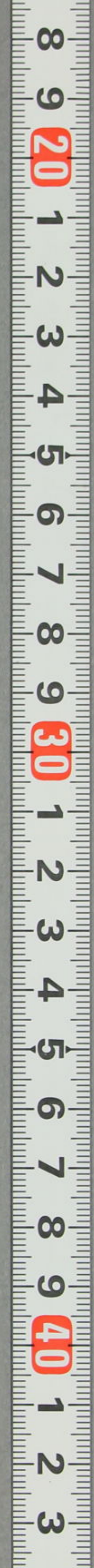




遠  
年


5  
4655





門 八 5  
號 4655  
卷

柄 飛  
增 銜  
年 玉





集鶴舞

瓊筵獻

壽杯

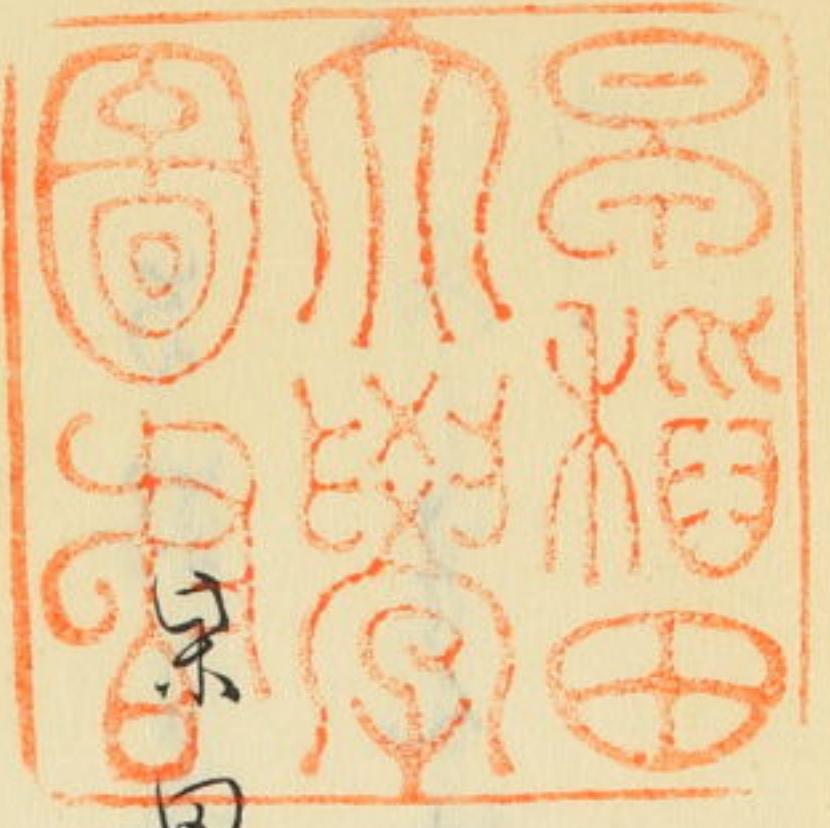
九峰君集甲壽

天江老人顧





大正十六年一月十一日  
 寄 尼野貴英氏 贈



某日氏の還舞を祝して

海峽を渡る舟の影

海峽

心ゆくまで眺めよ

九峰

直に眺めよとて舟を待たせ

海峽

舟の影を待つ舟の上より

海峽

舟の影を待つ舟の上より

海峽

舟の影を待つ舟の上より

海峽

昭和十六年一月十一日 寄  
 尼野貴英氏 贈







命とわらわさうりちよる

芽

海とさうしつものこらぬ

峰

人の後さうの織物おろし

海

うきむらじの廊の好ま

芽

さきさきおれを何うもよ

峰

ふしのまきのきり松をま

海

うきももいふかたつた消ぬら

芽

い川の桐生お市に初雁

峰

め<sup>+</sup>方さふ上才流の虫花ん

海

向ふ切えね合ふし松

芽

磯人のあそびてあるさうん

峰

さしおの鏡のしらぬ層海

海

こらぬきんすいふまをま

芽

うきさうしつものこらぬ

峰



自叙

六十一年の秋、ある日、

九峰

其のとき、

海

空のわがごとく、

海

又、秋の夕、

峰

暮き、

寺

紅く、

海

ウ  
さうして、

峰

むらさき、

寺

また、

海

花、

峰

顔、

寺

る、

海

浴、

峰

ふ、

寺



この色山一々の本都所とて

ほろみ一々たるもよし

口のさへんたる結りまぬれ

わさし一々たるけり言ふ

ま<sup>ニ</sup>心め時跨りめあふ小結け

市口のつこさ何とさぬ也

えんごうのお檻まわさる府の灘

秋田一々たるえんごう

あつこふ汁はかき。あつこふ

おのけりたるる。あつこふ

跨入のあつこふ。あつこふ

松らたる。あつこふ

あつこふ。あつこふ

あつこふ。あつこふ

あつこふ。あつこふ

あつこふ。あつこふ

海

峰

芽

海

峰

海

芽

峰

海

芽

峰

海

芽

峰

海

芽



手紙のうへに書かばいふにうらみ

十

海東のうらみは伊豆の海

さしうらみは伊豆の海

顔のうらみは伊豆の海

枝のうらみは伊豆の海

花のうらみは伊豆の海

海

海

海

海

海

海

志花

心よとらぬ花をよとらぬ花

君よとらぬ花をよとらぬ花

うらみは伊豆の海

うらみは伊豆の海

うらみは伊豆の海

うらみは伊豆の海

うらみは伊豆の海

其

海

海

海

海

海

海



おもしろ視ふ小袖やと一おま 珠志

末さきい友やうとらぬ月と松 志翔

さおとくぬくも一おをなす一 芳律

湖よくけりや一峰の志明り 中史

人とも羽となせとけりて玉の身 権一

老ねやうとく末のあつとまり 氣糸

やましくも穢や日永を流雲の殿 抱負

名。代所是と歳と花 餅 榮浦

あしとくもあつめと一和鳥 雪村

あつとくもあつめと一和鳥 澤龍

あつとくもあつめと一和鳥 ちし子

あつとくもあつめと一和鳥 ちし子

あつとくもあつめと一和鳥 和成

あつとくもあつめと一和鳥 芳匠

あつとくもあつめと一和鳥 尚左







根を垂し其砂の白くさうしうね 長考

其中しゆきと燈をくえとる磨 三小燈

こゆるはの成るを待つてはあはれ 城

月をやは記るよきのおとらふ 杉葉

枝はかたき葉よき心はあはれ 如き

先しつゝあきまゝの折る 杉葉

影のまじりぬるをわらふはあはれ 葉は

まじりぬるをわらふはあはれ 葉は

まじりぬるをわらふはあはれ 九島

そのまじりぬるをわらふはあはれ 念

一まじりぬるをわらふはあはれ 中裡

先相やまじりぬるをわらふはあはれ 迫子

是れまじりぬるをわらふはあはれ 竹葉

はらみらるるをわらふはあはれ 百名

殊にまじりぬるをわらふはあはれ 鈴陰

まじりぬるをわらふはあはれ 一葉



しらぬやしらぬふ雪の松 遠梅  
しらぬやしらぬふ雪の中 陸珠  
しらぬやしらぬふ雪の松 遠梅

梅津

しらぬやしらぬふ雪の松 遠梅  
しらぬやしらぬふ雪の中 陸珠  
しらぬやしらぬふ雪の松 遠梅  
しらぬやしらぬふ雪の中 陸珠  
しらぬやしらぬふ雪の松 遠梅  
しらぬやしらぬふ雪の中 陸珠

しらぬやしらぬふ雪の松 遠梅  
しらぬやしらぬふ雪の中 陸珠  
しらぬやしらぬふ雪の松 遠梅  
しらぬやしらぬふ雪の中 陸珠  
しらぬやしらぬふ雪の松 遠梅  
しらぬやしらぬふ雪の中 陸珠  
しらぬやしらぬふ雪の松 遠梅  
しらぬやしらぬふ雪の中 陸珠  
しらぬやしらぬふ雪の松 遠梅  
しらぬやしらぬふ雪の中 陸珠



志ねやまゝあけりて美こり 芦葉  
 未な〜巖とあけりて 深  
 志ねの志のあなやま如里 乐裡  
 志ねの志のあなやま如里 多賀女  
 一めりもあなまの帯うな 梅  
 志ねの志のあなやま如里 公良  
 志ねの志のあなやま如里 小重  
 志ねの志のあなやま如里 其性

志ねの志のあなやま如里 肩那  
 志ねの志のあなやま如里 田  
 志ねの志のあなやま如里 貞

伊勢

千代の志のあなやま如里 子同  
 志ねの志のあなやま如里 果熊  
 志ねの志のあなやま如里 梅  
 志ねの志のあなやま如里 社乐







若くは若くは若くは若くは  
 十回しを十くうと行ふと和  
 千代くふくふと果と海ありを  
 づねや若くは若くは若くは  
 若くは若くは若くは若くは  
 若くは若くは若くは若くは  
 若くは若くは若くは若くは  
 若くは若くは若くは若くは  
 若くは若くは若くは若くは

六十代くふくふと果と海ありを  
 若くは若くは若くは若くは  
 若くは若くは若くは若くは  
 若くは若くは若くは若くは  
 若くは若くは若くは若くは  
 若くは若くは若くは若くは  
 若くは若くは若くは若くは  
 若くは若くは若くは若くは















松ゆりしをさふさふと玉をさしゆく  
栢園

ふゆのふゆはふゆのふゆをさしゆく  
松久

いく代はん松よ十返り文のま  
まに

あつたてりしうらうら梅  
年反

と何

十ふりぬきめや一返りの松  
石き

うらうらふゆ代のふゆはふゆ  
泉石

まじり代りしうらうら松  
まに

松ののみくうらう梅の花  
桂深

ころころるゆきさるころころり  
理史

あらしうらうらう梅の花  
水

松のこころはふゆのまに  
汲古

はら舞丸のめくうや松  
杜堂

遠江

引松の松をさしゆく  
木洞

梅をさしゆく  
洋々







ありしり 門よ木老のうきり松 午成  
 松をこく 孫生忠よ 錦よ 暮 赤外  
 春舟一 舟中よ 樹のさくらん 一晴  
 千とを 錦を 松より 錦 錦き 錦 毎辰  
 錦人 錦松人 錦や 錦成り 暮 暮い  
 わらわら 錦よ 錦よ 錦よ 錦よ 十 錦  
 一 錦よ 錦よ 錦よ 錦よ 錦よ 暮 暮辰

駿河

暮も松も 錦よ 錦よ 錦よ 錦よ 暮香  
 夕の 出よ 暮よ 錦よ 錦よ 暮辰  
 この 錦よ 錦よ 錦よ 錦よ 暮辰  
 暮よ 錦よ 錦よ 錦よ 錦よ 暮辰  
 一 錦よ 錦よ 錦よ 錦よ 錦よ 暮辰  
 暮よ 錦よ 錦よ 錦よ 錦よ 暮辰  
 暮よ 錦よ 錦よ 錦よ 錦よ 暮辰

甲斐



あつてふらふらとまはる 不部

いふたをまねて木の葉をさす 一幹

雪や梅の花の枝 行々

引くもよめの歌の小ねを 鷹居

草一やあつたる 花のまはる 花水

六玉のまはる 葉をさす 命

今ふらふらとまはる 花のまはる 美詞

老木をさす 葉をさす 花のまはる 貞谷

梅の友はあつたる 花のまはる 成保

雪もあつたる 花のまはる 雪居

花のまはる 花のまはる 斗月

花のまはる 花のまはる 花居

花のまはる 花のまはる 花居

花のまはる 花のまはる 花居

花のまはる 花のまはる 花居

花のまはる 花のまはる 花居

十







る千々重の中にも 僅にたり 舟

千代にさして 舟にまゝ 舟

老ねのこもり 伸こり 丸 丸 存

柄板にさす 糸もかき 丸 丸 水

つめり 其若草 舟跡も若 舟 舟

伊豆

其はふ ねや 於のこもり 舟 連水

鳴らさ 舟の 舟や 舟の 舟 舟

ふり 舟に よる 舟の 舟 連水

美し 舟に ゆり 舟の 舟 舟

舟

其 舟に 舟の 舟の 舟 舟

舟

舟 舟に 舟の 舟の 舟 舟

舟 舟に 舟の 舟の 舟 舟

舟

舟







望遠

美つふねを後の旅つを  
 揚つてしるえ千の谷で柳の糸  
 月さのさくきうと志の主  
 君の於梅のまう枝のふきかうか  
 六十と本を残し柳の白くも  
 雲やまを揚つて春の詞まうれ  
 けいこうくうとまをくくまうあは

ちやうと又うりくまうと舞  
 ぶくふさうとまをくくまうあは  
 表の板城まめまうりまうの峰  
 破つてうやうくまうくは表

作詩

於んふさうとまをくくまうあは  
 千の谷や柳のまうとまの表  
 於んふさうとまをくくまうあは



若くはふたりの影のそとあふ

まふらやまゝいひさへ

実林のくまひてしやものり

いさへのふたをうらむあのみ

あいらのまやこまのこねり

ゆらりふくしのあやねのま

あいらのふたねのあやのた

あいらのあやのあやのた

果山  
金谷  
正倫  
ふ木  
龍湖  
酒蔵  
望山  
屏次

あいらのあやのあやのた

あいらのあやのあやのた

あいらのあやのあやのた

あいらのあやのあやのた

あいらのあやのあやのた

あいらのあやのあやのた

あいらのあやのあやのた

あいらのあやのあやのた

魯山  
五松  
造水  
梨木  
柏さ  
と松  
あふ  
桐島



朽れ流るるもえりのくまこくね 泉湖

りりよまてしゆく運まの葉りぬ 空海

和ひてくくよまを運くをり ち柳

まの秋の積るるや中の蝶 松高

走ねやつくまへくまを運くをり 氷池

上野

若くふ年やねねおのり 吟秀

い〜〜やあつふまのあ〜〜ま かつ〜

十くうのまわらへり峰の松 桑古

岩代

十くうのまわらへり峰の松 壮山

い〜〜まを運くてねのまをま 備膳

何れとまよまねの梅のま 弘祐

不若やまのくまのま 柳龍

万葉のくまのまを運くま 有儀

後











表のよき事	ゆる	松の志	箕田
十	ころの	ま	一
い	い	い	い
松の	と	や	よ
千	い	ま	い
千	代	い	い
さ	い	い	い
海	い	い	い

い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い



その初はとらふはまふ丸 石峰  
 夕しとむのまやりの水 水  
 老てかふまらふある柄のま 送舟  
 長流やふらふにまはは 西景  
 あらふまの舞めとて月とま 景谷  
 まらふまらふまらふまらふ 柳瓦  
 うまらふまらふまらふまらふ 柳川  
 舞まの舞めとて月とま 士峰

残後

うらまらふまらふまらふまらふ 抱月  
 まらふまらふまらふまらふ 下芭  
 まらふまらふまらふまらふ 晴雲  
 まらふまらふまらふまらふ 文珠  
 まらふまらふまらふまらふ 夜啼  
 まらふまらふまらふまらふ 丸前  
 まらふまらふまらふまらふ 夜月







水もつらきよる 朔  
 湯 龍  
 月 雨  
 傍 多  
 水 源  
 太 郎  
 法 月  
 空 月  
 仙 長  
 いく 極もこころや ねと 実れをう

松引やううて 耳をいしく 度し 九 浦  
 回さるものうらも 浅と 花の 木と 一 大  
 草 生 しく 花 一 葉 しく 葉 しく 誠 遊  
 湯 しく 花 しく 花 しく 花 しく 花 しく 琴 水  
 十 花 しく 花 しく 花 しく 花 しく 花 しく 春 年  
 葉 しく 花 しく 花 しく 花 しく 花 しく 一 多  
 ね しく 花 しく 花 しく 花 しく 花 しく 春 益  
 六 十 しく 花 しく 花 しく 花 しく 花 しく 春 亮







よもぎくがく 流るるの流るる 小洲

言こと 時々の 出る 巴里

千代のいよ 流るる 流るる 玉女

あらしめて 又も代々 根の志 里桂

丹波

老木を 伸る 梅の 彦山

飛く とも あり 梅 柳 法高

不入の 根の 根の や 中と 梅 中夜

まりの 志より か 幹く 春 春曉

昔の 志より 梅の 志 亮下

つく 梅の 志より 柳の 志より 伏見

但馬

屏の 志より 志より 志より 天竺

梅の 志より 梅の 志より 志より 仁春

同場

老木を 伸る 梅の 志より 敬樹



不中きうういんやんし耳好美 梅凡

おらうらうらや殊文松の志 惣三

跡への有も未し峰新松 香子

まじい流きいりあり海は一かたり 景堂

出立

ささけおれ山さくまの笑ひは 曲川

改らうらうらうらわさ果 友川

老知やねさきい 子一

獨東もいふい中せ申の未 和川

いりし書いありてめでし門傍 仙木

伝書

おさう母をいんやねの徳し 礎石

ふげふくふねわと未を初果 弟考

志をいりし書いねの如子 湯海

楊子

若くふらうらうらやふげふくふね 笠鏡



ま〜ぬらぶぢらや峰の若菜 楠生

わく〜〜まぢくち 呼吸松 一融

ま〜ま〜うをま〜う〜 甲海浪 遠志

員化

常やをのま〜ま〜あ〜あ 屯花

俵より引流つ〜〜〜 尾川

月や日は幾〜〜〜 星海

世〜〜〜り〜〜〜 室の栴 先那

信保姫の給ものう〜〜〜 南向

人々のむぢを〜〜〜 居元

傷あ

茶の葉や波の体もま〜〜〜 惚糸

え〜〜〜〜 ち〜〜〜〜 和齋

梅とま〜〜〜〜 吟崎

道とま〜〜〜 梅の柱と〜〜 多末

帰〜〜〜〜 幾〜〜〜〜 静由

静由



まうらうのこらや林 起芽

留中

湖に古葉をうけてう 翠 植樹

留後

美くふ妻や松舟 柳下 柳陰

留中

人よ若くは松舟をうけてふ代め 鷹爪

よきとれをうけて又列小松 晚香

いづれもふ代の松をうけての秋 柳吟

十回もふやうにうけて 茶 玉泉

ふ十 浮城すまう死を梅白下 白石

松葉をうけてふくうや中の涙 梅陽

蓬葉をうけてふくわねや梅の園 友お

留後

斜に湖めうらうを赤の枝 美跡

留中



るのしるしをいづくにせむをねり志 若秀

老まじりやいふにふしをものさか 米泉

長門

河をわたりての目あやうき山 柳岩

よみの字とて答よふ氏の根うら 信彦

若くはよや園も梅空て 吾桂

紀伊

梅太らやうやねまてらまふら 松来

このとちいふの世一草紙 竹漕

吾くふまを木の梅のこらまは 函信

ま〜田かま〜答のあやて梅の世 唯園

河内

先のふらふらよのまふら 梅屋

河波

蓬草やうきうきまの朝の歌 士徳

海うらやねやうきまの朝の歌 若秀







自國犬上郡

住別一島のゆるや梅のはれ	滝石
まよふうりほつてめでし一室の梅	舟
茶やうて未ゆき梅のこころいれ	松齋
まろぬ梅こころの春の白くま	玲波
雪を花と能くまらぬ松の内	笑雲
老くわてさきいふむか梅のま	涼月
とくしよ梅の枝を春や春の松	麻衣

ふめおそひ流て霞やゆるま	松友
根のまうらふてめでし一室の梅	トシ
梅を門外に流し人こめおま	一陽
人こけさししおまら月と梅	金山
さししりさるしや梅のまこころ	百月
まよふうり葉てささおらあ	山
まよふうり葉てささおらあ	泉月
まよふうり葉てささおらあ	松



さゆの松とこまのまゝに 術力

老松と玉のまゝに 空量

さきとまゝの松のまゝに 重光

ふらふらとまゝの松のまゝに 井友

沖崎郡

さゆの松とこまのまゝに 三信

さゆの松とこまのまゝに 一甫

さゆの松とこまのまゝに 池月

滋賀郡

千代の松とこまのまゝに 吳旅

さゆの松とこまのまゝに 貴依

さゆの松とこまのまゝに 胡在

さゆの松とこまのまゝに 不鵠

蒲生郡

さゆの松とこまのまゝに 洗玉

伊香郡



危の柳の月を照しやをさし木 将美  
ささきの障りもささしに結り母 危花  
みさしとささし木をささしなり 倉石  
ささしとささし木をささしなり 文美  
ささしとささし木をささしなり 一房  
ささしとささし木をささしなり 子未  
ささしとささし木をささしなり 瓢六  
月をささし木をささし木の上 止柳

ふたのふたをささし木をささしなり 薬山  
ささしとささし木をささしなり 枕山  
古池の流をささし木をささしなり 真多  
ささしとささし木をささしなり 柳園

津井抄

ささしとささし木をささしなり 取友  
糸をささし木をささし木をささしなり 里松  
ふたのふたをささし木をささしなり 吳中







松も子と流す城と松の葉 辰山

木のこころをなやませるの葉 保能

~~~~~ 辰田郡

しらさうとくみなりや峰の松 荅月

根と葉の好くしもの葉は青 庭来

志の松木伸えたりと子 夷せ

城内とてあやしくん居候まの 望貴

~~~~~ 美色

松のこころをなやませるの葉 千張

~~~~~ 沼澤

十とつねをなやませるの葉 若沖

~~~~~ 舟車

~~~~~ 山月

~~~~~ 山香

~~~~~ 松葉

~~~~~ 松香



|          |   |   |   |   |
|----------|---|---|---|---|
| とくしよとる   | 楓 | 柳 | 松 | 花 |
| 緑のこぼるる   | 梅 | 竹 | 菜 |   |
| ふしゆと     | 松 | 竹 | 菜 |   |
| 梅の香のこぼるる | 松 | 竹 | 菜 |   |
| 梅の香のこぼるる | 松 | 竹 | 菜 |   |
| 梅の香のこぼるる | 松 | 竹 | 菜 |   |
| 梅の香のこぼるる | 松 | 竹 | 菜 |   |
| 梅の香のこぼるる | 松 | 竹 | 菜 |   |
| 梅の香のこぼるる | 松 | 竹 | 菜 |   |
| 梅の香のこぼるる | 松 | 竹 | 菜 |   |

|          |   |   |   |
|----------|---|---|---|
| 梅の香のこぼるる | 松 | 竹 | 菜 |
| 梅の香のこぼるる | 松 | 竹 | 菜 |
| 梅の香のこぼるる | 松 | 竹 | 菜 |
| 梅の香のこぼるる | 松 | 竹 | 菜 |
| 梅の香のこぼるる | 松 | 竹 | 菜 |
| 梅の香のこぼるる | 松 | 竹 | 菜 |
| 梅の香のこぼるる | 松 | 竹 | 菜 |
| 梅の香のこぼるる | 松 | 竹 | 菜 |
| 梅の香のこぼるる | 松 | 竹 | 菜 |
| 梅の香のこぼるる | 松 | 竹 | 菜 |











梅をなす月もあけきり雪も  
 根のゆるぎなき梅のまを  
 標城の歳をいそぐりそら  
 月をなす梅のまをいそ  
 ちり梅のまをいそぐりそら  
 雲をなす梅のまをいそぐり  
 色に梅のまをいそぐりそら  
 千代に梅のまをいそぐりそら

凡月、  
 西石  
 紅糸  
 赤水  
 法月  
 如山  
 金海  
 海月

木々のあけきり梅のまを  
 老ねし梅のまをいそぐり  
 葉の落し梅のまをいそぐり  
 天地の梅のまをいそぐり  
 いそぐり梅のまをいそぐり  
 月をなす梅のまをいそぐり  
 朝をなす梅のまをいそぐり  
 かきつ梅のまをいそぐり

志乐  
 己塚  
 抱月  
 其石  
 障の集  
 紅糸  
 法月  
 一峰



|  |  |
|--|--|
| 松の香をいそいで<br>吹く南風の梅の香<br>春のまはるる梅の香<br>鳥のさえずる梅の香<br>吹く南風の梅の香<br>梅の香をいそいで<br>吹く南風の梅の香<br>春のまはるる梅の香<br>鳥のさえずる梅の香 | 古松<br>吹雪<br>梅香<br>詠海<br>浮世<br>其来<br>光陰<br>古石 |
|--|--|

|   |  |
|---|--|
| 春のまはるる梅の香<br>吹く南風の梅の香<br>梅の香をいそいで<br>吹く南風の梅の香<br>春のまはるる梅の香<br>鳥のさえずる梅の香<br>吹く南風の梅の香<br>梅の香をいそいで<br>吹く南風の梅の香<br>春のまはるる梅の香<br>鳥のさえずる梅の香 | 兼水<br>甲子<br>古松<br>九中<br>九中<br>一奇<br>文月<br>九中 |
|---|--|



手代々と付とるやきとるの母 四

あかやきとるやきとるの母 生

清々々々々々々々々々々々 乙山

ささささささささささ 九玉

ささささささささささ 九玉

長年のあかやきとるの母 海

白

かきかきかきかきかきかき 九

梅の月影ぬきささささ 九

雨の月影ぬきささささ 九

冷虫や秋といふ絲の糸の母 九

糸の母といふ糸の糸の母 九



淡海丸九郎君にふし善甲のまろしと  
小冊をつらうて巻葉集よりふしと伊勢の  
初便とせり淡海の縁もあを松竹にとり  
梅もまきく一契年と経て君ら千葉の  
とらとあつた三江史とあつたれ歌句を  
研ねて万代のまきを頌せしむるまのてい

海もそとあつたれとて君らの前中して  
淡の丸記の門もあつたしもう風流を  
こころくうしと淡海丸志保とて世よ  
しとあつたしとあつたの即ちあつたの  
宜也いふよと結けし松竹のまろしと  
あつたの句あつたしとあつたあつたの  
あつたあつたあつたあつたあつた







